**2023年度　事業報告書**

（2023年4月1日　～　2024年3月31日）

特定非営利活動法人ユニバーサル就労センター

1. **事業の報告**
2. **就労移行支援事業**
3. 利用者実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2023年度　実績 | 2022年度　実績 |
| 利用者数（年間・延べ） | 36人 | 35人 |
| 利用者数（3/31時点） | 17人 | 20人 |
| 平均利用者数（1日当たり） | 13.6人 | 16.1人 |
| 平均通所率（年間） | 81.9% | 85.4％ |
| 新規一般就労者数 | 9人 | 7人 |
| 新規一般就労後6カ月定着者数 | 7人 | 8人 |
| 見学者数 | 37人 | 36人 |
| 新規利用登録者数/体験者数 | 18人(＋就労アセスメント5人)/21人 | 17人(＋就労アセスメント5人)/22人 |
| 平均収入（月額） | 3,415,729円 | 4,061,516円 |

　　　　2024年度の報酬ランク最上位を達成。

1. 支援について

・利用者の個別性を重視し、多くの困難事例に対し就労準備性の向上につながる支援を検討・実施し、多数の利用者の一般就労や就労スキルの向上に結び付けた。

・三重県障がい者委託訓練事業を5年連続で受託し、新たな就労先等の開拓や企業との連携、利用者の一般就労が実現した。

・職員間での連携や共有、意見交換を意識し、各利用者の多角的な理解や支援につなげた。

・実地訓練（伊勢おやき、スプラウト、なやプラザ等）を延べ45人が実施。継続的な訓練を通して利用者の特性の理解や実践的就業スキル・習慣の向上につながった。

1. 外部との連携

・世話人代表として「四日市障がい者就労移行支援事業所ネットワーク会議」を運営し、企業を対象とした障害者雇用率向上を目的とした冊子を作成・配布した。

・三重県中小企業家同友会との連携を、同会への入会や「四日市障がい者就労移行支援事業所ネットワーク会議」の活動等を通して行った。

・特別支援学校や専門学校等からの生徒の施設見学や実習、就労アセスメント等の依頼が定着し、そこから新規利用登録につながるケースが増加した。また看護大学等からの実習の依頼も受託し、今後も継続していく方針である。

1. **就労継続支援B型事業**
2. 利用者実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2023年度　実績 | 2022年度　実績 |
| 利用者数（年間・延べ） | 6人 | 5人 |
| 利用者数（3/31時点） | 5人 | 4人 |
| 平均利用者数（1日当たり） | 3.6人 | 2.0人 |
| 平均通所率（年間） | 72.3％ | 63.8％ |
| 見学者数 | 15人 | 18人 |
| 新規利用登録者数/体験者数 | 1人/5人  | 2人/4人 |
| 平均工賃月額（1人当たり） | 28,964円 | 28,158円 |
| 平均収入（月額） | 554,336円 | 306,951円 |

1. 支援について

・伊勢おやき本舗、トレーニングカフェスプラウト等の現場との連携をより強化し、様々な作業内容を準備・提供した。利用者通所率の低下の中においても、各利用者の職業習慣・スキル、取り組める内容の拡大につながった。

・利用者のスキルや体調等の個別性を重視し、丁寧なコミュニケーションを通じ段階的な支援を実施した。また利用者同士のコミュニケーションを重視し促すことで、利用者の自主性・協調性が向上した。

・サポステや特別支援学校、外部事業所（放課後等デイサービス）等からの見学者・訓練生を受け入れ、より連携が深まった。また障害を持つ子の保護者向けの見学イベントの受入れも積極的に行い、認知度が向上した。

1. 工賃向上に向けた工夫

・各利用者に応じた作業環境や作業内容、関わりの検討・工夫等を通して、安定的な就労の機会の提供や工賃の向上に寄与した。

・サブレやプリン等の受注販売が増加した（企業・個人、イベントなど様々）。

・新商品の開発を行った。

1. **就労定着支援事業**
2. 利用者実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2023年度　実績 | 2022年度　実績 |
| 利用者数（年間・延べ） | 10人 | 10人 |
| 利用者数（3/31時点） | 8人 | 7人 |
| 平均利用者数（1月当たり） | 8.0人 | 8.7人 |
| 新規利用登録者数 | 2人 | 2人 |
| 平均収入（月額） | 134,387円 | 141,758円 |

1. 支援について

・毎月丁寧な情報収集や相談支援を行い、利用者の多くで、安定的な就労定着が実現した。特に雇用契約期間満了を迎える利用者の円滑な転職をコーディネートし、本人のさらなるステップアップにつなげた。

　・利用者や企業担当者に対して適宜仲介・調整等の支援を行い、二者間のコミュニケーションが円滑に行えるよう工夫・配慮を行った。時には、必要なタイミングで利用者や企業側に休職等に関する助言等も行い、双方にとって有益な結果を得られるよう調整を行った。

　・適宜職場からの客観的情報も得ながら、利用者の正確な状況把握を行い、支援を行った。

1. 新規利用者の獲得

　ユニバーサル就労センターから一般就労をした対象者のうち、比較的就労定着上の課題が大きい人を優先的に本事業の利用につなげた。そのような中でも、利用者の就労定着の実績は向上し、次年度の報酬は1ランク上がることにつながった。

また常時上限人数まで利用者の受け入れを行い、利用者数を維持することができた。

1. **生活訓練事業（虹のふもと）**
2. 利用者実績　　　　※（　）は日中一時支援

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2023年度　実績 | 2022年度　実績 |
| 利用者数（年間・延べ） | 11人（4人） | 11人（2人） |
| 利用者数（3/31時点） | 7人（4人） | 6人（2人） |
| 平均利用者数（1日当たり） | 3.0人 | 3.7人 |
| 平均通所率（年間） | 44.8％ | 50.3％ |
| 見学者数 | 8人 | 13人 |
| 新規利用登録者数/体験者数 | 7人/8人（2人/3人） | 6人/9人（2人/2人） |
| 平均収入（月額） | 496,620円（19,857円） | 613,763円（4,334円） |

1. 支援について

・担当職員間でフォローをし合い、利用者の個別的ニーズを重視した丁寧な対応や関わり、相談支援を実施した。

・利用者の特性に配慮し参加しやすい環境を提供することで、平均通所率等の維持に努めた。

・特定相談支援事業とも連携し、2名の利用者を発展的な次の進路へとつなげた。

1. 日中一時支援事業

新たに２人の新規利用者を獲得した。その他、随時本人や外部相談支援事業所から問い合わせがある等、ニーズの高い状態を維持している。

1. **特定相談支援事業（相談支援事業所ライツ）**
	1. 利用者実績

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 2023年度　実績 | 2022年度　実績 |
| 契約者数（3/31時点） | 50人 | 49人 |
| 新規契約者数 | 14人 | 22人 |
| 平均報酬（月額） | 221,824円 | 282,965円 |
| 特定相談支援等体制強化補助金 | 726,628円 | 910,416円 |

* 1. 支援について

・利用者の障害福祉サービス安定利用に向け、本人の視点に立った相談支援を丁寧に行った。特に利用者の希望や意向を大切にし、自己選択・自己決定を重視した支援を行った。

・3月末の閉所に向け、利用者のサービス利用等に影響が出ないよう、他の相談支援事業所への移管手続き等を相談支援専門員２人体制で円滑に進めた。

1. **三重県障がい者委託訓練事業**

訓練実施数13件、うち11人就職。

・訓練受託企業等の開拓と、事業利用希望求職者の掘り起こし

・訓練生、企業、県、ハローワーク、地域若者サポートステーション、就労系障害福祉サービス事業所等との連携

・四日市障がい者就労移行支援事業所ネットワーク会議との連携

・訓練カリキュラムのコーディネート、進捗状況の把握と助言

1. **四日市市障害者体育センター指定管理（共同運営）**

・利用率向上のための工夫の検討、体制や設備の整備・改善

・施設の管理運営、安全・快適な利用のための検討

・他の機関や福祉事業所等との連携、自主事業の開催

**【全体事項】**

・就労移行支援事業所の移転、法人として2棟体制になった（6月～）。

　　　・相談支援事業所ライツが閉所（3月末）し、利用者の他事業所への移管やセルフプランへの変更を支援した。

　　　・各種活動を通じて、企業、相談支援事業所、他通所事業所等と継続的に連携した。潜在的利用者に向けたホームページのこまめな更新の他、広報紙を中心とした広報活動も精力的に行い、法人の認知度の向上につながった。

　　　・法人内の階層的支援や、伊勢おやき本舗やスプラウト等との連携体制について、見学・体験者に魅力を感じてもらえる機会が多かった（特に教育機関や放課後デイの当事者・保護者）。

　　　・各種資格取得支援や研修等を積極的に行った。韓国への研修旅行（9月）も実現し、支援や連携の体制、法制度等を相対的に学ぶ機会となった。

**【全体の課題】**

・人員補充の不十分さにより、一人当たりの業務負担が過大に。

・個別支援計画が有効に機能しにくい現状。

・多くの事業所で「利用者数」「通所率」「収入」が減少。

　他方、2棟体制によるランニングコストは増加。

・広報活動の強化・拡大

・利用者の理解度の差が大きく、既存のプログラムでの限界が顕在化。

・就労後一定期間経過後の不安定化、離職リスクの増

・法人内での円滑な事業所間連携、一貫した方針のもとの利用者支援

・各事業における、外部との連携のさらなる強化・拡大

**２．事業の実施に関する事項**

1. **特定非営利活動に係る事業**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業名 | 事業内容 | 実施予定日時 | 実施予定場所 | 従業者の予定人数 | 受益対象者の範囲及び予定人数 | 支出見込み（千円） |
| 障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害者福祉サービス等の事業 | ①就労移行支援事業②就労継続支援B型事業③就労定着支援事業④生活訓練事業⑤特定相談支援事業⑥その他の事業⑦四日市市障害者体育センターの指定管理（共同運営） | 2023年4月1日～2024年3月31日 | ①②③④⑤⑥ユニバーサル就労センター⑦四日市市障害者体育センター | 15人 | 四日市市及び近隣の障害者等 | 58,045 |

1. **その他の事業**

　　　なし

